学校教育目標『つながる　続ける　創り出す』

# 三ツ境小だより　3月号

令和6年2月22日
横浜市立三ツ境小学校

## 「大谷選手から寄贈されたグローブ」

校　長　　飯田　雅人

１月２９日、「野球しようぜ！」というメッセージとともに、大谷選手からの寄贈のグローブ３個が、三ツ境小学校にも届きました。これは、メジャーリーグで活躍する大谷選手が、日本中の小学校、約２万校にグローブをプレゼントしようというプロジェクトの一環として届いたものです。運用の仕方は、各学校に任せられています。中には、「この手紙は、このたび私が学校に通う子どもたちが野球に興味をもってもらうために立ち上げたプログラムを紹介するためのものです。・・・私は、このグローブが、私たちの次の世代に夢を与え、勇気づけるためのシンボルとなることを望んでいます。それは、野球こそが、私が充実した人生を送る機会を与えてくれたスポーツだからです。・・・」という大谷選手からのメッセージも同封されていました。

まず教職員で考えたことは、小学生にグローブを贈るという大谷選手の思いを大切にするのであれば、大事にケースに入れて飾っておいてもしょうがないということでした。子どもたち全員が大谷選手から送られたグローブに少しでもたくさん触れ、そして大切に使っていくことができる機会をつくることが大事です。しかしながら、６００人以上いる子どもたちに対して、３個のグローブです。その使い方については、当然ルールを決めなくてはいけません。まずは、卒業を間近に控えた６年生から順番に回し、クラスごとに１日ずつ自由に使ってよい日をつくろうということになりました。これだけでも、２２クラスあるので、１か月以上かかります。自分のクラスに順番が回ってきた日には、まずは一人ひとりの子がグローブを実際に手に取り、休み時間などを利用して、順番にキャッチボールをすることなどから始めています。子どもたちの各クラスでの様子を見ていると、目をキラキラと輝かせながら、グローブを実際に自分の手にはめてみたり、大谷選手のサインを確認したりしています。今後大切なことは、グローブを大切に扱うのはもちろんのことですが、仲良く順番に、そしてたくさんグローブを使ってほしいという大谷選手の思いに気付き、そのように使っていくことができる子どもを育てていくことではないかと思います。もう少しで、全クラスにグローブが回ってくる一巡目が終わります。今後子どもたちが、このグローブをどのように使っていくのかが楽しみです。

さて、３月１９日（火）には、６年生９９名が卒業していきます。また２５日（月）には、修了式を迎えます。残された日々の中で、一年間のまとめをしっかりと行って、令和６年度を迎えたいと思います。保護者の皆様、地域の皆様、今年度の本校の教育活動を支えていただき、ありがとうございました。来年度もよろしくお願いいたします。